



利用者様の作品紹介

“健康で長生きし、Dayみなまきの作品を書棚一杯に”

＜三木智恵子さんのお話し＞

平成元年に家を新築した頃、夫が転倒し、脳挫傷で半身不随になりました。その後20年間、私と娘家族皆で献身的に介護してきましたが、昨年家族に見守られながら亡くなりました。

一人になった寂しさもあり、Dayみなまきに通い始めました。現在週2回通っていますが、火曜日は主に手芸をしています。もともと裁縫・編み物など手仕事が好きで、娘が小さい頃は洋服を、孫には防災頭巾などを作っていました。今はとても楽しく、デイサービスの作品作りができています。



夫が読書好きで立派な書棚がありました。亡くなった後、本を整理した際、「ここに作った作品を飾ろう！」と思い始めました。

思い出ある書棚に作品が増えていくことに、喜びを感じています。中でも、キューピーさんと猫がお気に入りです。

(猫は4匹だと思っていたら、小さい子猫が1匹飾ってありました)



＜取材後記＞ 作品一つ一つに、智恵子さんの笑顔で楽しそうに作っていらっしゃる姿が思い浮かぶ様でした。

人生の先輩として、尊敬できる生き方だと心に打たれるお話しでした。

「あさがお協力隊～旭区認知症の家族会～」 からのお知らせ



認知症の方を介護されている御家族のつどいの会開催日

6月20日(月) こんなことで困ったら・・・

7月25日(月) 排泄ケア

8月22日(月) 口腔ケア

区役所で開催。13時半～15時半に行われます。

ボランティアグループ「あさがお協力隊」と旭区役所高齢化・障害支援課の共催で、月1回御家族のつどいを開催しています。たすけあいあさひからは川瀬ケアマネージャーが参加しています。

5月の旬

暮れ六つの鐘に崩れる白牡丹 祐一



暮れ六つは、午後の六時頃。夕闇の中に白牡丹の白さが浮き立つ。遠くよりひびく鐘の余韻に、大輪の牡丹が崩れるように散った。鐘の音に牡丹の花が呼応したかのようなのである。

牡丹の花は、花の大きさといい、色も紅・淡紅・黄・しぼりなど艶やかで、花の女王の風格をもつ。美しい女性の形容にも使われる華やぎがある。白牡丹には気品の高さがあるが、その花の崩れるような散りぎわの姿は、どこかはかなさを感じさせる。
(榎本 選)